

1 社会・治安情勢

(1) カラチ市

2013年9月以降、治安機関がパキスタン・タリバン運動（TTP）等のテロ集団を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図っている（通称「カラチ掃討作戦」）ほか、2015年3月11日には、準軍部隊レンジャーが、シンド州を基盤とする政党「統一民族運動（MQM）」の本部を捜索し、大量の武器弾薬を押収、多数の重大事件被疑者を逮捕したことにより、凶悪犯罪が減少し、治安の回復が謳われている。しかしながら、同年5月13日、シーア派イスラム教徒の乗ったバスが武装集団に襲撃され、バス乗客等46人が殺害される事件が発生し、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」に対する攻撃の脅威が顕在することを示した。2016年7月には、軍用車で移動中の陸軍兵士2名が武装集団に襲撃され殺害されており、掃討作戦によりテロ集団の勢力が減退しているとはいえ、テロ集団は軍部を襲撃する攻撃能力を依然保持していることから、引き続き十分な注意が必要である。また、8月にはハンガーストライキ中のMQM支持者が暴徒化して警官隊と衝突し、デモ参加者1名が死亡する事件が発生している。カラチでは様々な抗議デモが市内各地で頻繁に行われていることから、注意が必要である。

(2) バロチスタン州

7～9月も引き続き治安機関によるテロリスト掃討作戦が継続され、多くのテロリストの逮捕、投降等あるものの、宗教過激派や民族主義武装集団による異宗派、移民、治安機関等を対象とした標的殺人や爆弾テロ事件は依然多発している。8月には州都クエッタ市内の市民病院で自爆テロが発生し、弁護士ら70名以上が死亡する事件が発生した他、9月にも警察官2名が死亡する爆弾テロ事件が発生している。同州では、現在もバロチスタン州治安機関とテロ集団が臨戦状態にあり、治安情勢は極めて悪い。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪統計

カラチ市警察が発表した7～9月の犯罪統計によれば、カラチ掃討作戦の成果により、殺人事件の発生件数は昨年同期より激減し、総犯罪発生件数、身代金目的誘拐および強盗等の凶悪犯罪の発生件数は漸減している。他方、窃盗の発生件数は増加傾向にあるが、治安機関の活動の多くが同作戦に充当されていることから、窃盗等一般犯罪に対する抑止力が弱まっているとの見方がある一方、好調な経済による人口増加に、警察力が対応できていないとの見方もある。

また、交通死亡事故の発生件数も微減しているものの、交通事情はいまだ過酷な状況にあることから、犯罪に対する注意警戒のみならず、安全な道路交通を十分心がけ

る必要がある。主な犯罪種別の内訳は以下のとおり（カッコ内は前年同期）。

- ・ 総犯罪発生件数 9,425件（11,465件）
- ・ 殺人 144件（232件）
- ・ 身代金目的誘拐 11件（18件）
- ・ 強盗 803件（914件）
- ・ 窃盗 1,461件（1,345件）
- ・ 武器不法所持 1,642件（1,825件）
- ・ 交通死亡事故 117件（130件）

（2）邦人関連事案

ア 日系企業工場に対する建造物侵入未遂事件

8月4日午後11時25分頃、正体不明の者たちが、カラチ市ビンカシム地区所在の日系企業工場の塀を乗り越え敷地内への侵入を試みたものの、警備員の威嚇射撃により逃走した。その後同人らは、同日午後11時55分頃にも同様に同工場の塀を乗り越えようとしたものの、警備員の威嚇射撃により再び逃走した。

イ 邦人所有車両に対する窃盗（車上荒らし）事件

9月28日午後3時頃、カラチ市ジャムシェド地区のカラチ日本人学校側道に駐車中の邦人所有車両の窓ガラスが破壊され、車内からカーオーディオ一式が窃取された。

3 主なテロ・爆発事件等発生状況

（1）シンド州・カラチ

ア 7月8日、警察はカラチ市ガダップ地区を搜索し、銃撃戦によりテロ集団「スワート・タリバン運動（TTS）」構成員1名および暴力団員1名を殺害、手榴弾2個、小銃1丁、けん銃2丁を押収した。

イ 7月18日、警察はカラチ市グルバーク地区を搜索し、銃撃戦によりテロリスト4名を殺害、自爆ジャケット2着、爆薬20kg、自動小銃2丁等を押収した。警察側も2名が負傷した。

ウ 7月20日、警察はカラチ市ビンカシム地区を搜索し、銃撃戦によりテロ集団「インド亜大陸のアルカーイダ（AQIS）」構成員1名および「ラシュカレジャングビ（LeJ）」構成員1名を殺害、自爆ジャケット1着、自動小銃1丁、けん銃2丁等を押収した。

エ 7月26日、カラチ市サダル地区において、陸軍の補給輸送部隊所属の兵士2名が軍用車で移動中、オートバイに乗った男たちにけん銃で撃たれ死亡した。

オ 7月30日、シンド州ラルカナにおいて、レンジャーを標的にした爆発が2件連続して発生し、レンジャー隊員1名が死亡、同隊員5名を含む15名が負傷した。

カ 8月11日、レンジャーと警察はカラチ市ガダップ地区を搜索し、銃撃戦により

テロ集団「ＴＴＰスワート」構成員４名を殺害し、けん銃３丁、手榴弾および爆発物を押収した。

キ ８月２２日、カラチ市サダル地区において、党員の逮捕に抗議してハンガーストライキ中のMQM支持者が暴徒化して警官隊と衝突、デモ参加者１名が死亡した。

ク ９月３日、警察はカラチ市ケマリ地区を捜索し、銃撃戦によりテロ集団「ジュンドゥッター」構成員１名を殺害し、手榴弾５個、オートバイ１台、けん銃１丁を押収した。

ケ ９月１３日、シンド州シカールプルにおいて、イスラム教の祝日である犠牲祭「イーदゥル・アドハー」を祝うため、シーア派教徒多数が集まるモスクで自爆テロが発生し、警備中の警察官４名を含む１０名が負傷した。

(２) バロチスタン州

ア ８月２日、辺境警備隊（FC）がケチ県ホシャーブを捜索し、銃撃戦によりテロ集団「バローチ解放軍（BLA）」構成員３名を殺害、７名を逮捕し、小銃４丁、自動小銃２丁、散弾銃３丁等を押収した。

イ ８月８日、クエッタの病院で自爆テロが発生し、弁護士ら７０名以上が死亡、１００名以上が負傷した。本件は、同日殺害された同州弁護士協会会長の遺体が同病院に安置され、多数の弁護士が弔問に訪れている最中に発生した。テロ集団「ジャマートゥル・アハラール」およびISILが犯行声明を出した。

ウ ８月１１日、連邦宗教裁判所裁判官の乗った車両が、クエッタ市ザルグーン・ロードの陸橋を走行中、遠隔操作により爆弾が爆発、同裁判官を警護中の警察官４名および通行人９名が負傷した。

エ ８月１２日、FCはコフルー県カハンを捜索し、銃撃戦によりテロ集団「バローチ共和軍（BRA）」構成員４名を殺害した。

オ ８月１２日、FCはクエッタ市ハザルガンジー地区を捜索し、銃撃戦によりテロリスト３名を殺害し、小銃２丁、オートバイ２台、携帯電話数台を押収した。FC側も２名が負傷した。

カ ８月２５日、グワダル県コルダンにおいて、武装集団が部族警察の乗った車両を襲撃し、同警察官７名が死亡、４名が負傷した。

キ イスラム教の祝日である犠牲祭「イードゥル・アドハー」初日に当たる９月１３日、クエッタ市サリアブ・ミルズ地区を警察車両が走行中、道路上に仕掛けられた手製爆弾（IED）が遠隔操作により爆発し、警察官２名が死亡、警察官６名を含む９名が負傷した。TTPが犯行声明を出した。

４ 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した７～９月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は１１件（前年同期１８件）、身代金目的以外誘拐は３３７件（前年同期４７

6件)、児童誘拐は38件(前年同期27件)発生し、身代金目的誘拐を巡る状況は改善傾向にある一方、児童誘拐の発生件数は増加していることから、引き続き十分な注意が必要である。邦人が被害となる誘拐事件は発生していないものの、テロ組織が資金獲得のため犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で売り渡す場合もある。在留邦人を含む外国人が誘拐された場合には、事件が長期化する可能性が高いことから、当地で生活する場合、誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

(1) 渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にある上、比較的警備の手薄ないわゆる「ソフトターゲット」がテロの標的とされる傾向にある。よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

(2) 駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、けん銃強盗等の路上犯罪も頻発しており、実際に在留邦人被害の強盗事件も発生している。また、テロ集団による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。